



安全啓発パトロールを実施しました



この度、川崎市経済労働局と川崎南・川崎北労働基準監督署が連携し、川崎市市内における労働災害防止活動を積極的に推進するため、川崎市市内の事業場を訪問した「安全啓発パトロール」を合同で実施しました。

令和7年は、第14次労働災害防止計画の3年目に当たりますが、川崎市市内の労働災害発生状況を見ると、11月末現在で死亡災害が8件(うち建設業2件)発生しており、前年同期と比べて4件増加しています。また、神奈川県全体においても建設業の死亡災害が多発しており、11月末現在で15件と、令和6年の1年間に発生した12件をすでに上回るなど、非常に深刻な状況となっています。このような状況を踏まえ、本年の安全啓発パトロールは、建設現場を対象として実施しました。

今回のパトロールを契機として、川崎市市内の事業場で働く皆様に、改めて労働災害防止の重要性を認識していただき、より安全で快適な職場環境づくりに向けた取り組みを一層進めていただければ幸いです。

1 実施日

令和7年12月24日(水)

2 実施者

川崎市経済労働局長 川崎南労働基準監督署長 川崎北労働基準監督署長

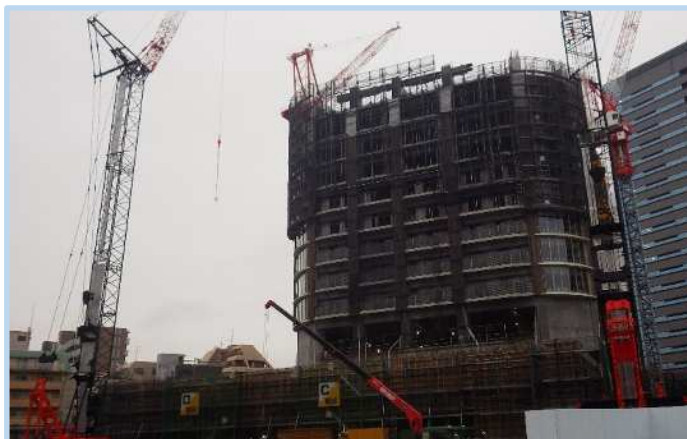
3 パトロール対象現場

名 称:株式会社フジタ東京支店 日本医科大学武蔵小杉地区C街区計画新築工事
所在地:川崎市中原区小杉町1丁目390番地

4 工事の概要

本工事は、鉄筋コンクリート造、敷地面積 20,172.59 m²の敷地において、共同住宅として地上50階・地下1階建ての共同住宅2棟(ノース・サウス、総戸数 1,438 戸)を建設するものです。あわせて、医療施設や高齢者福祉施設等の整備を予定した4階建ての低層棟(ノース棟)および、スーパーマーケットなどの商業施設や健康増進施設を予定した3階建ての低層棟(サウス棟)を新築する計画となっています。

5 実施状況



パトロール現場の全景



川崎市経済労働局 田邊局長からのあいさつ



当日は、株式会社フジタ東京支店 丸山作業所長から、工事の概要に加え、安全管理活動の取り組みについて説明がありました。具体的には、オフサイト建築の導入、時短朝礼、職長会活動、チャットアプリの活用、多言語標識の設置、熱中症対策、遠隔安全管理システムの運用、統括安全衛生責任者による新規入場者教育など、幅広い取り組みが紹介されました。

労働災害防止対策 見える化(多言語標識、階数表示、安全通路等)



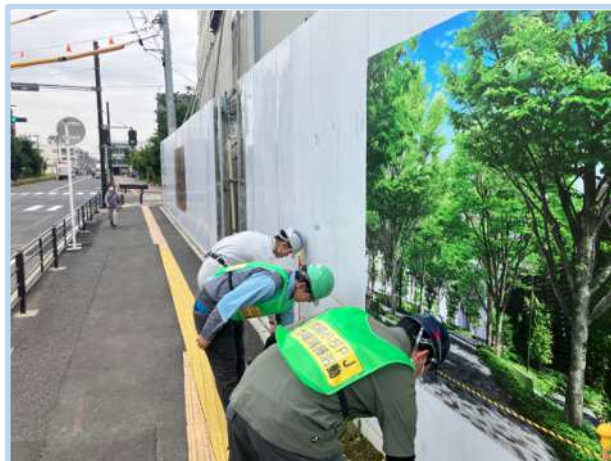
外国籍作業員の増加を踏まえ、多言語(英語、ベトナム語、タガログ語、中国語等)による注意喚起表示を行っているほか(左上)、重機作業や揚重作業が多い現場特性に応じて、協力会社が自主的に立入禁止看板を制作・設置しています(右上)。このほかにも、階段の一方通行表示や階数表示、色付きネットによる安全通路の確保、特大ロードコーンを用いた危険箇所の「見える化」など、随所に工夫が見られました。

労働災害防止対策 オフサイト建築(プレキャスト化)



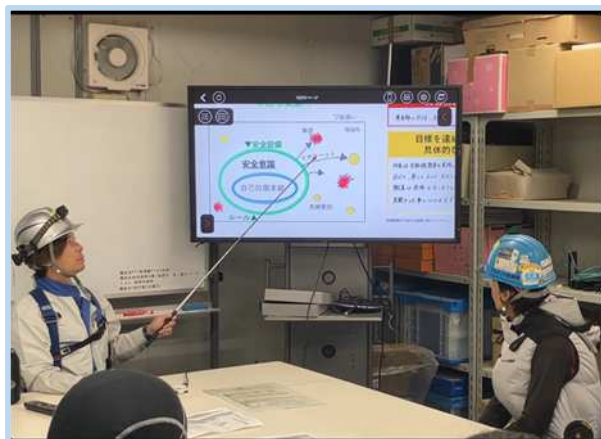
躯体工事については、プレキャスト化を進めることで、高所での複雑な作業を減らし、災害リスクの低減を図っています。あわせて、工程の短縮にもつながっているとの説明がありました。梁プレキャスト設置状況(左)、床プレキャスト設置状況(右)(プレキャストとは、壁や柱などのコンクリート部材を工場であらかじめ製作し、現地で組み立てる工法です。)

労働災害防止対策 職長会活動



職長会(一次協力会社の代表者による組織)に一定の権限を委ね、活動にスポットライトを当てることで、自主的な安全活動を促しています。職長会からの要望にも可能な限り応える姿勢を大切にし、良好な信頼関係を築いている点が印象的でした。最近では、躯体階へのトイレの設置要望に速やかに対応したほか、職長会安全パトロール(左上)や地域清掃活動(右上)も、それぞれ月3回程度行われています。

労働災害防止対策 統括安全衛生責任者による新規入場者教育



安全方針

全工期一様安全時間
~~4,500,000時間~~

ご自身の無災害記録を
今日も更新！

会社名 株式会社丸山 発行日 2016年 3月 17日
作業所名 武蔵小野PT 発行日 2016年 3月 17日

作業所長の安全衛生方針

- 一、家族の元へ元気に帰る、ゼツタイ
- 一、安心、快適な職場環境を維持

災害防止重点目標

事故防止、不祥事の全工期発生ゼロ

目標を達成するための具体的な実施事項

所長は全新規入場者も、職種や現場状況や経験に
応じて、素早く正しく力伝へる安全講話を絶えず。
職長は現場のなによりに「おやま」願っています。
民間と仕事については必ず「アソビ」も願っています。

新築現場の安全衛生責任者として、作業所長 丸山 岳典

新規入場者教育については、丸山作業所長(統括安全衛生責任者)が毎朝一人ひとりに対して丁寧に実施しています。受け入れた作業員としっかり対話を重ね、現場への理解と意欲を高めたうえで作業に送り出しており、個々に応じた説明を心掛けたこの取り組みを9年間継続しているとのことでした。

作業所長の安全衛生方針

- 一、家族の元へ元気に帰る、ゼツタイ
- 一、安心、快適な職場環境を維持



講評では、「人を教育することの大切さと同時に、教える側がしっかりと向き合う姿勢も重要である」としたうえで、丸山作業所長(統括安全衛生責任者)が現場全体を把握し、新規入場者の配置先を確認しながら丁寧に教育を行っている点が高く評価されました。

また、パトロールを通じて、安全対策の見える化、墜落・転倒防止措置、多言語対応などが随所に確認できたことから、今後も職長会との良好な関係を維持し、他の現場の模範となるような取り組みを継続してほしいとのコメントがありました。